

# ドクター板東の メディカルリサーチ

Vol. 25

～美しい国は文化と心から～

<http://hb8.seikyou.ne.jp/home/pianomed/>



島で行われ、すべて成功裏のうちに終了した。全国からのお客様に、ご満足していただいたことだろう。

徳島の文化といえば、何といっても「阿波踊り」。昨年夏、映画ロケが行われ、桟敷での大規模な総踊りが話題になつたのを覚えているだろうか。地元の人々の全面的協力により、素晴らしい映画「眉山」が完成し、大きな反響を呼んだ。

この映画が高く評価されたため、小説や映画に引き続き、舞台まで企画されることに。私はちょうど運良く、本公演を観ることができたので、今月はこの話題に触れてみたい。

**明治座**

羽田空港から京急・浅草線に乗り、東日本橋で降りて明治座に向かう。ここは長い歴史を有し、明治の頃はモダンな姿であつた(図1)。現在は新しいビルに生まれ変わっているが、建物の傍らでは幟が風にたなびき、昔ながらの雰囲気

「眉山」は、歌手のさだまさし氏が、小説として書き下ろしたもの。氏は子供のころからバイオリンの名手で、全国でもトップクラスの実力だった。思春期には、様々な苦労をしながら、読書を続けた哲学者でもあつたと言えよう。フォーク歌手となつてブレイクし、心を和ませる曲と軽妙な語りには定評がある。

私もファンの一人として、よくコンサートに出かける。普通のコンサートとは違い、夕方の5時30分から長時間にわたり、歌い、しゃべり、とても魅力的なステージが続く。

実は、日本で一番コンサ

が醸し出されている(図2)。大きく「眉山」と書かれた垂れ幕が、相当遠くからでも目につく。

劇場に足を踏み入れて驚いた。目の前にそびえ立つのは、阿波踊りに欠かせない提灯(ちょうちん)の集合体(図3)。観劇に来る人を歓迎し、お客様が感激するというワケだ。



図1 開業時の明治座



図2 現代の明治座

い提灯(ちょうちん)の集合体(図3)。観劇に来る人を歓迎し、お客様が感激するというワケだ。

阿波つ子にとつては、提灯を見るだけで、心がウキウキしてくる。有名連がずらりと並び、その一番上には

「眉山」は、歌手のさだまさし氏が、小説として書き下ろしたもの。氏は子供のころからバイオリンの名手で、全国でもトップクラスの実力だった。思春期には、様々な苦労をしながら、読書を続けた哲学者でもあつたと言えよう。フォーク歌手となつてブレイクし、心を和ませる曲と軽妙な語りには定評がある。

私もファンの一人として、よくコンサートに出かける。普通のコンサートとは違い、夕方の5時30分から長時間にわたり、歌い、しゃべり、とても魅力的なステージが続く。

実は、日本で一番コンサ



図3 明治座に飾られた提灯

## 心憎い演出

「阿波の殿様、蜂須賀様が、今に残せし、阿波踊り」。舞台で伸びやかに詠うのは、映画でも主演を担つた宮本信子さん。実は、宮本さんには徳島の血が流れているという。本家が小松島で、小さな頃、祖母がお

がいにしても、さだ氏は、音楽家に加え、小説家でもあり、哲学者でもある。エンターテイナーでもある。この素質と努力とお人柄、すべてが超一流なのだ。

酒を嗜み、阿波踊りをゆつくり踊っていたそうだ。

神田のお龍と呼ばれ、自分の信念を貫き通してきた母と、石田ゆり子さん演じる娘の咲子。この母子関係が提示されたとき、人形浄瑠璃「傾城阿波の鳴門」の名場面が出てくる。お弓と、母を捜す巡礼の子・おつるとの関係が、うまく重ね合わされているようだ。

また、江戸っ子特有の語りや、場割の展開が速く、全体に小気味良いテンポ感が溢れている。エネルギーッシュな阿波踊りもあれば、夢の中でゆっくりと過ぎていくシーンも。つまり、三味線のようにメリハリがう

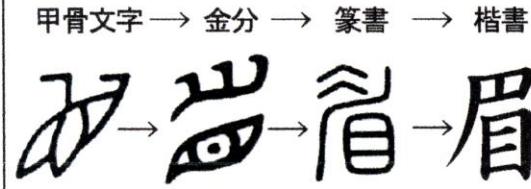


図4 「眉」の変化

意）と用いられる。宮本信子さんの眉も目

## 「眉」は美しい

「眉」という漢字は、目の上の毛の象形文字で、まゆを表す。図4のように、甲骨文字→金分→篆書→楷書と変化した。眉目（まゆと目、顔かたち、面目、ほまれ）とか、眉目秀麗（びもくしゅうれい、美男子の意）と用いられる。

まく効き、美味しい料理のようにスパイスがよく効いている。

さらに、テーマに含まれるのが伝統や文化、愛情、病気など。命の尊さがじーんと伝わってくる。まさに示唆に富むものだ。

なお、女性が眉を上手に使うと、「媚びる」となるが、神田のお龍は、毅然とした態度で、歯を喰いしばり強く生きたのである。

明眸皓齒（めいぼうこうし、明るい瞳と白い歯）がぴったり。やはり「芸能人は歯が命」なのだろう。

徳島から応援団

休憩時間に館内を回つていると、ずっと遠くのポスターが何となく、私を呼んでいるような気分に。近づいてみて、ハハーンと納得。人形浄瑠璃、阿波踊り、吉野川、眉山という、徳島のポスターだった（図5）。

無意識レベルでも懐かしく感じ、引き寄せられてしま



図6



図5 徳島県のポスター

## 詩心が美しい

以前に原作「眉山」を読んだときは、ハードカバーの愛蔵版だった。その後、本書の売れ行きが良かつたのである。今回、文庫版が出版され、表紙の帯には、演劇の紹介も（図7）。

本劇の主題歌「眉山」の作詞作曲は、さだまさし氏が担当した。本曲は、このたびリリースした新CD「MIST」の中に収録されて

いる。早速、同劇場で購入し、じっくりと聴いてみると、

♪遠いふるさとのようないあなたを愛して生きた眉山にかかる月のように手は届かなくても

いつでも傍にいた♪  
詩が美しい。ロマンチックな旋律と融合し、伸びや

うのかもしれない。

特別コーナーに置かれているのが、徳島の観光パンフレットだ。傍には、徳島県観光協会のスタッフが出

張し、公演中ずっと徳島の味や魅力を精力的に紹介していた（図6）。



図7

（板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト）